

「水と空気に関わる設備」を支える

大和ホーム工業は、天井裏や床下、機械室など目に見えない場所でも力を発揮する「水と空気に関わる設備」の設計、施工管理を行っています。多く手掛けているのは、大規模な商業ビルや工場、病院、公共施設などの、冷暖房や換気の空調工事や給排水工事といった、快適な住環境に不可欠な設備の工事です。規模が比較的大きな現場も多く、「地図に残る仕事」をしているという誇りを胸に取り組んでいます。

こうした設備は耐用年数が建物自体に比べて短いため、リフォーム工事も多く請け負っています。設備のシステムも刻々と進化しているので、時代に即したものを取り入れています。

ITを活用し業務を効率化

働き方も時代と共に刻々と変化しています。特にコロナ禍では、業務におけるIT活用が急速に進みました。全社員にタブレットを1台ずつ貸与し、現場管理ソフトを導入。Web上で会議開催や勤怠届出、各種決済



現場でもITを活用



責任感を持ち作業する若手社員

を実施、施工図面の製図はCAD（コンピュータ利用設計システム）を利用して平面から立体、透視図までをパソコンでスピーディーに作成し、データをクラウド上に保管しています。業務の効率化が劇的に進みました。

一方で現場では根本的な技術は不変です。人の命を預かる業務でもあり、一人一人が責任感を持ちながら、先輩社員から若手社員に専門的な技術やノウハウを継承しています。

継続的な採用が好循環につながる

定期的に採用する新卒社員は定着し、社員の平均年齢は36歳です。各年代の社員を適切に配置することなく、互いに切磋琢磨して施工管理者、技

術者としての自覚を高めているのでしよう。当社の施工設備は見えない部分にはありますが、その工事内容を評価いただき、松本市の優良建設工事表彰を何度も受賞しています。技術の継承や時代に合わせた教育の実施が好循環を生んでいます。風通しがよく誰もが提案しやすい社風で、互助会も会員の意見をくみ、昨年は懇親会積立金を「市内の飲食店支援に」と松本市に寄付しました。これらも社会につながっていることを意識しながら、時代の変化にも対応した最先端のシステムの導入を目指していきます。



互助会が松本市へ寄付

社員の声

入社2年目の
Kさん(21歳)



専門学校で事務系の勉強をしてきた私は、インターネットを通じて就職活動をする中で、大和ホーム工業を知りました。会社情報にあった「アットホームな職場」に惹かれて面接を受け、1社目で採用が決まりました。

一昨年の4月に事務職の社員として入社し、先輩たちから多くのことを学んできましたが、まだまだ分からないことがあります。会社はとても雰囲気が良く、楽しく仕事ができます。今後はさらに社員の皆さんに頼られるような仕事ができるよう、頑張っていきたいと思っています。

大和ホーム工業では次代を担う社員を募集しています



株式会社 大和ホーム工業

TEL.0263-25-7600

松本市双葉14-18 kagami-group.co.jp

受け継がれるもの―「銘」に刻む職人の誇り―

松本民芸家具には一つ一つに、手掛けた職人の「銘」が刻まれています。それは、いつの時代も変わらない品質を保ち、人々の暮らしに長く寄り添い続けることのできる家具づくりをモットーとする松本民芸家具の職人たちが、唯一自分の名を残すことができるもの。そこには、「いつまでも大切に使い続けてほしい」という願いと、「最善の仕事をした」という職人としての責任と誇りが刻み込まれています。

ユーザーとのつながりを模索

全国各地で展示会を行い、松本民芸家具の魅力を直接お客さまに伝えることを大切な活動のひとつにしている当社ですが、コロナ禍では思うように催事ができず、厳しさを感じてきました。そんな中、力を入れたのが家具を使ってくださるエンドユーザーとの接点を増やすことでした。SNS（ソーシャルネット

トワーキングサービス）など新たな窓口を作ったことで幅広く情報発信することができるようになり、客層は広がりました。ユーザーの率直な感想やニーズを吸い上げるためにも、SNSなどは有効なツールだと感じており、今後も工夫して活用していきたいと思っています。



暮らしのさまざまなシーンで活躍するビューロー

7歳のお客さまとの出会い

本物に触れることの大切さを感じさせてくれた出会いが、昨年ありました。京都のデパートで行われた催事でのことでした。ある女性が、7歳の娘さんが弊社のビューローを欲しがっていたと声をかけてきました。

そのデパートには常設で当社のビューローを展示していたのですが、娘さんがそれを見る度に「これが私の机」と言うのだそうです。ほかの勉強机には目もくれないのだと。嬉しい気持ちはありませんが、数十万円もする家具です。幼いお子さんのために購入されるとは考えにくく、親子で来場された際に商品の説明はしませんでした。ところが後日、購入することにしたと

連絡があったのです。娘さんの熱意に根負けしたと。今、娘さんの誕生月である3月の完成を目指し製作中です。京都で展示したビューローが引き合わせてくれた、このご家族との縁に私たちはとても勇気づけられました。この出会いが思い出させてくれたのは、家具は使う人の人生に寄り添い、その先も受け継がれる可能性があるものだという事、だからこそ職人は手掛ける家具全てに責任を持たなければならない、そのための「銘」なのだ。



中町にある松本民芸家具のショールーム

しの中、ふと感じる小さな幸せや嬉しいことを拾い上げ、希望の光としていくことが、先の見通せない今の時代を前向きに生きていくためには大切なことなのだろうと、いま強く感じています。

株式会社 松本民芸家具

松本市中央4-7-5 TEL.0263-32-1326 http://matsumin.com/

【展示場】中央民芸ショールーム 松本市中央3-2-12(中町) TEL.0263-33-5760